

救急基金だより

みなさまの善意が「救急基金」を支えています

- 救急基金の歩み
- 寄付金募集事例紹介
 - ・北上地区消防組合消防本部
 - ・栃木市消防本部
- 平成30年度救急基金会計の決算
- 救急基金への寄付について



救急基金は、応急手当の普及など救急の振興のために活用されます。

一般財団法人 救急振興財団

応急手当の普及へ向けて

救急救命士制度の発足とともに救急救命士の養成を目的として平成3年5月に設立された救急振興財団は、設立当初より21,282名の救急救命士を誕生させるなど、救急体制の充実及び応急処置による心停止傷病者の救命効果の向上に大きく貢献しています。

しかし、なお一層の救命効果の向上には救急救命士の現場到着前の市民による応急手当が重要であり、また、そのような応急手当の習得の要望も高まっています。

そこで、こうした課題に対処するために、救急振興財団では平成4年より、皆様から

寄せられた寄付金を基金として積立て、その運用益を用いて応急手当講習会で使用する資器材の寄贈や応急手当の普及など、救急の振興に役立つ事業を行っています。

事業の概要

＜平成5年度～平成8年度＞

応急手当指導員養成講習会の開催

＜平成9年度＞

ポスター及び救急基金箱の作製

＜平成10年度～令和元年度＞

消防機関が市民向けに行う応急手当講習会で使用する資器材の寄贈

寄付金募集事例紹介

北上地区消防組合消防本部

北上地区消防組合は、岩手県の中ほどに位置した北上市と秋田県境に接する西和賀町の1市1町で構成され、人口約10万人、面積約1千平方キロメートルを管轄する2消防署、2分署、1出張所の広域消防組合です。

北上市は、日本さくらの名所100選の「展勝地の桜並木」、秘湯「夏油（げとう）温泉」などで訪れる人達を楽しませ、西和賀町の「湯田温泉峡」は良質な温泉と静かな佇まいで多くの人に愛されています。

北上地区消防組合消防本部では、救命入門コース、一般救命講習、普通救命講習を実施しており、平成30年は全ての講習会を合わせ講習回数165回、約4,000名の方が受講されました。平成29年から年1回ずつ夏休みの時期に小さいお子さん家族を対象にした「親子で学ぶ救命講習」を企画し、親子で楽しみながら心肺蘇生法・AED使用方法等について学ぶ機会を設け、講習会の最後には参加した子供たちが救急隊を結成して救命活動を行うという救急隊員体験を取り入れ、夏休みの家族の思い出とともに救命について学べる講習会として開催しています。

また、小・中学校で突然起こりうる心臓停止事案に対して居合わせた人が的確に対応出来るよう、年度初めに行われる市内小・中学校の校長が集まる会議に職員が出

向いて、子供達を突然死から守れる学校づくりを目的として講習会を開催していただくよう協力を依頼しています。

バイスタンダーによるCPRを実施したケースとしては、13歳の男子が中学校のクラブ活動中、急に意識消失し卒倒、異変に気付いた顧問教員が119番通報と他の教員への応援要請を生徒に指示し、心肺蘇生及び学校のAEDで除細動を1回実施、救急隊接触時には心拍が再開し、病院到着前には呼びかけに対して受け答えが可能な状態となりました。理想的な救命の連鎖で一人の生徒の命が救われ、現在は後遺症なく元気に学校生活を送っています。

このように応急手当の普及に熱心に取り組まれている北上地区消防組合消防本部の職員や市民の皆さまに心から感謝するとともに、今後の益々のご発展をお祈りいたします。



栃木市消防本部

栃木市消防本部は約16万人が暮らす栃木市を1本部、1署、5分署で管轄しております。栃木市は、栃木県の南部に位置し、管内面積は331.50km²で関東平野に連なる平坦地が広がり、四季折々の彩りを見せる大平山、三轟山などの観光スポットが点在し、多くの観光客が訪れています。

管内には三次医療機関がなく、長時間の救急搬送を伴うことから、栃木県ドクターヘリと連携した救急対応を行っております。

平成24年から獨協医大救命救急センターへの12誘導心電図伝送を開始し、管内の救急車全てに12誘導心電計が配備され、伝送件数は年々増加傾向にあります。日中は栃木県ドクターヘリとの連携も加わり、心臓カテーテル治療等の決定的治療開始までの時間短縮に成果を上げています。

栃木市消防本部では、普通救命講習や上級救命講習の他にも救命入門講習を実施するなど、応急手当の普及啓発に積極的に取り組んでおります。特に胸骨圧迫については、「強く、速く、絶え間ない」と何度も繰り返し言って受講者に印象づけるなど、楽しく、真剣に学んでいただけるよう講師それぞれの持ち味を生かした救命講習を心がけています。

実際に、デイサービスを利用していた男性がCPA状態となった時に、有効な胸骨圧迫を実施できた事例もありました。

また、昨年度は外国人の方向けの救命講習を開催してほしいとの要望があり、外国人の方に対する救命講習を初めて実施しました。

救命講習で使用するパンフレットやフローチャートは日本語版しかなかった為、関係機関と協力して、英語、中国語、スペイン語、ネパール語、ベトナム語に対応できるように作成して開催したところ、次回も是非依頼したいと大変好評でした。

今回救急基金より、訓練用人形等を寄贈いただきましたが、訓練用人形の「意識確認モニター」と「気道確保モニター」が目に見えて手技の評価がわかる為、指導しやすく、受講者からも手技が確認出来て分かりやすいとのお話を伺うことができました。

このように様々な工夫をして応急手当の普及啓発に取り組まれている栃木市消防本部の皆様にご心より感謝し、今後のご活躍をお祈りいたします。



みなさまのご寄付で購入しているもの



皆様から寄せられた寄付金を積み立てた救急基金の運用益で、

- ・心肺蘇生訓練用シミュレーター
- ・応急手当講習用DVD
- ・応急手当講習テキスト
- ・AEDトレーナー

を購入しております。

これらは、全国の消防本部に寄贈され、応急手当の講習会等で活用されています。



*過去の救急基金だより（N0. 1～N0. 17）につきましては、救急振興財団のホームページ（<http://www.fasd.jp>）の救急基金の項目の中に掲載しています。

■平成30年度救急基金会計の決算（単位：千円）

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
I 事業活動収支の部			
1 事業活動収入			
① 特定資産運用収入	2,080	2,080	0
② 寄付金収入	1,000	763	237
事業活動収入計	3,080	2,843	237
2 事業活動支出			
① 事業費支出			
救急基金助成事業費支出	2,170	2,070	100
事業活動支出計	2,170	2,070	100
事業活動収支差額	910	773	137
II 投資活動収支の部			
1 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2 投資活動支出			
① 特定資産取得支出	1,000	763	237
投資活動支出計	1,000	763	237
投資活動収支差額	△ 1,000	△ 763	△ 237
当期収支差額	△ 90	10	△ 100
前期繰越収支差額	0	191	△ 191
次期繰越収支差額	△ 90	201	△ 291
※平成30年度末救急基金残高		182,921千円	

救急基金へのご協力ありがとうございました

平成30年度は病院、消防本部、個人の方から39件763千円のご寄付をいただきました。

また、救急基金にご協力いただいた次の7消防本部へ応急手当訓練用人形、テキスト等を寄贈いたしました。

- ・北上地区消防組合消防本部
- ・栃木市消防本部
- ・南信州広域連合飯田広域消防本部
- ・幸田町消防本部
- ・白浜町消防本部
- ・香美市消防本部
- ・宗像地区消防本部

救急基金への寄付について

救急基金は「救急基金箱」への募金や「郵便振替用紙」によりお申し込み頂けますので、皆様のご協力をお願いいたします。

お問い合わせ 一般財団法人救急振興財団
救急基金担当 TEL 042-675-9931



救急基金箱が破損等により使用できない場合などのお問い合わせは下記をお願いいたします。

救急基金だよりNo.18 [編集・発行] 一般財団法人救急振興財団事務局総務課

〒192-0364 東京都八王子市南大沢4-6 ☎ 042-675-9931

FAX 042-675-9050